

真珠湾攻撃
 日系人強制収容所 忠誠公聴会
 マンハッタン・プロジェクト
 軍産複合体 原子炉
 ウラン プルトニウム
 ノルデン爆撃照準器
 B-29 エノラ・ゲイ
 トリニティ実験
 原爆投下
 黒い雨の残留放射線
 寿命調査
 核軍拡競争
 水爆実験 放射性粒子
 ウラン・プルトニウム
 グリーン・ラン
 人体実験
 ホールボディカウンタ
 原子力発電
 プルトニウム保持
 核廃棄物



【関連イベント】
 7月23日(土) 午後2時
 岡村幸宣 x 蔦谷楽 オープニングトーク
 9月27日(火) 午前10時
 手塚美和子 x 蔦谷楽 Zoomトーク

WAR DRIVE

蔦谷楽 Gaku Tsutaja

二〇二二年
 彼らは戦争を終わらせない
 悲劇の世界を駆け抜けて
 未来を奪還せよ

2022年7月23日(土) - 10月2日(日)

原爆の囃 丸木美術館

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

ワーブドライヴ

蔦谷楽はニューヨークを拠点とし、核の歴史的悲劇をテーマとして日米両国でのリサーチやインタビュー、またアーカイブの研究を通して、制作活動を続けてきた。核問題は日本で語られる物語とアメリカのそれでは大きく違うところがあれば、共通点もある。蔦谷はその両方に目を向け耳を傾け、国境を超えて共有されるべき物語を美術作品として構築しようと模索する。多様な社会的役割をもった核被害者や関係者たちを深く観察し、既存の意味や理解を超えようとする—それは、繰り返し語られてきた歴史物語を戦後77年経った時代にもう一度語る上で、在米日本人アーティストとしての蔦谷個人としての挑戦でもある。戦争を知らない世代が戦争を自分たちの問題として抱えるための新しい物語、それが蔦谷の作品の根幹となっている。

原爆の図丸木美術館での「ワーブドライヴ」は、蔦谷の日本初個展、アメリカで活動してきた作家のホームcomingである。メインの展示スペースでは、2種類のバラック—第二次世界大戦時にアメリカで建設された日系人強制収容所のバラックと戦後の広島長崎に建てられたバラック—というモチーフが接合した構造物に蔦谷の映像作品が組み込まれ、また小スペースでは平面作品が一堂に展示となる。

蔦谷の映像作品にはリアリティが込められている。「Beautiful Sky Golf Course」は、大日本帝国軍による真珠湾攻撃直後にアメリカでスパイ容疑をかけられ最初に収容された日系1世の男たちの物語。蔦谷は、日系人捕虜の収容されていたバラックや国家忠誠の有無を調べる尋問をかけられた法廷が再現保存されているモンタナ州のフォート・ミズーラ歴史博物館に6週間滞在し、この作品を完成させた。収容所生活の中で自分たちでゴルフコースを作ったという日系人捕虜の当時のエピソードにインスピレーションを発している。

また、第二次世界大戦時の核兵器製造、広島長崎への原爆投下、冷戦時代のアメリカ、そして現代にまで続く放射能の影響と隠蔽の経緯を作品と昇華させたのが「ENOLA'S HEAD」だ。蔦谷は核兵器の歴史に関わった場所、ニューメキシコ州のロスアラモス・アラモゴード・アルバカーキー、ワシントン州のハンフォード・スポケーンインディアン居留地、ユタ州ウェンドーバー、そして広島を現地取材し、日米の被爆者、歴史家、そしてさまざまな

核の専門家たちに言質を取りながら物語を作り上げていった。この作品の中で、登場人物たちは奇妙な動物や虫、もしくは植物の形をした面をかぶり、行動を起こす。この面は日本で7、8世紀に流行しながらも鎌倉時代には絶滅した伎楽面を模しており、映像の中では、三途の川が凍りついた世界で鳥の顔をした博士が数々の面を発掘するシーンから始まっている。絶滅した文化を掘り出していくというメタファーが、伎楽面という素材の選択や核の絶望的な未来に交差してゆく。

「Study with the Moon」は、B-29エノラ・ゲイが戦後広島に原爆を投下したのちに、メリーランド州アンドリュース空軍基地に雨ざらして屋外放置されていたというワシントン・ポストの記事をヒントに制作された。窓ガラスが割られ、部品を盗まれた爆撃機。人間に蹂躪され、鳥や様々な害獣に住みつかれたエノラ・ゲイがその間にみた夢というのがモチーフになっている。

2022年 彼らは戦争を終わらせない
悲劇の世界を駆け抜けて 未来を奪還せよ
ワーブドライヴへようこそ

蔦谷 楽 つたや・がく

1974年東京生まれ。東京造形大学でBFA取得(1998年)、現代美術センターCCA北九州スタジオプログラムに2年在籍。2006年渡米。ニューヨーク州立大学パーチャイス校でMFA取得(2018年)。主な個展は、Rubin Center for the Visual Arts, テキサス大学エルパソ校(テキサス, 2021)、Ulterior Gallery(ニューヨーク, 2017, 2020)、Shirley Fiterman Art Center, マンハッタン区コミュニティ大学(ニューヨーク, 2019)など。2022年ハワイトリエンナーレ参加。現在ニューヨーク在住。www.gakutsutaja.net

【関連イベント】

7月23日(土) 午後2時 岡村幸宣 x 蔦谷楽 オープニングトーク
岡村幸宣: 丸木美術館学芸員・専務理事

9月27日(火) 午前10時 手塚美和子 x 蔦谷楽 Zoomトーク
手塚美和子: Reversible Destiny Foundation(ニューヨーク) アソシエイト・ディレクター 兼 PoNJA-GenKon (Post-1945 Japanese Art Discussion Group 現代美術懇談会) コ・ディレクター
詳細は企画展ウェブサイトにて告知します。

<https://marukigallery.jp/5388/>

公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

〒355-0075 埼玉県東松山市下唐子1401 T: 0493-22-3266 F: 0493-24-8371
M: info@marukigallery.jp W: <https://marukigallery.jp/>

【交通】電車でお越しの場合、池袋駅より東武東上線急行で約1時間(東松山駅・森林公園駅・つきのわ駅) ※JR武蔵野線をお使いの方は北朝霞で降車し、隣接する朝霞台駅から東上線に乗り換えると便利です。

- 森林公園駅 南口より(約3.5km) タクシー 約12分・徒歩 約50分
- 東松山駅 東口より(日祝除く)4番乗り場より市内循環バス「唐子コース」(日祝運休) 約15分「丸木美術館東」で下車し、徒歩約15分 <バス時刻表> 8:45、10:10、11:10、12:10、14:30、15:35
- つきのわ駅より(約2.5km) 徒歩 約30分

【開館時間】午前9時 - 午後5時

【休館日】月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)

【入館料】大人900円 中高生または18歳未満600円
小学生400円 団体(20名以上)、60歳以上、チラシ持参者、比企地区在住者100円割引 障碍のある方は半額

